



11月号

昭和63年11月1日
発行/編集
岡崎市教育委員会

遠い山の
どんぐりの実が
はじけて とんだ
これが秋の はじまり

それから

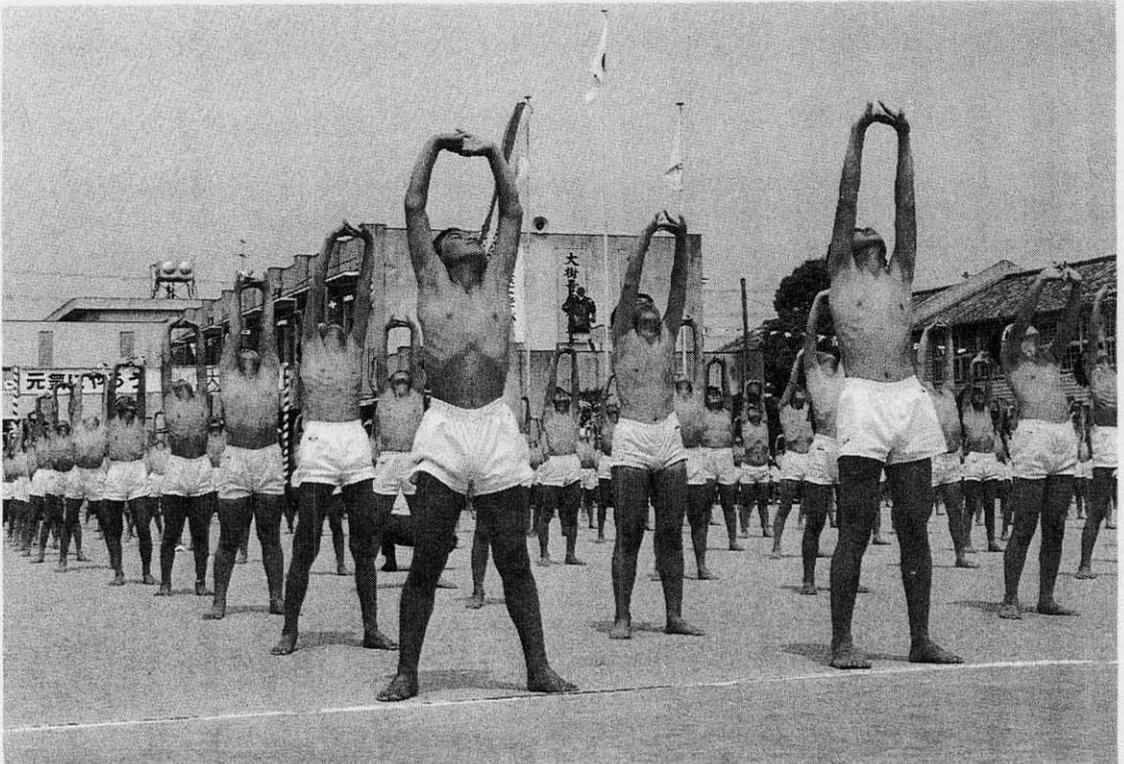
祭り囃子に うかれ出た
子どもみこしが
はじけて 舞った

紙の上に描かれる樹々
鮮やかな 子ども色に
はじけて 染まった

焼けた素肌に 赤だすき
見せて子ども魂
はじけて エネルギー

秋物語は
もう里にもおりる

(秋物語)



(のびよ大樹寺っ子 — 大樹寺小)



分子研の一般公開

木村克美

— 教育随想 —

分子科学研究所の一般公開は本年十一月五日(土)に予定されている。岡崎の三研究所(分子研、基生研、生理研)の一般公開は毎年順番に行われているので、分子研は三年ぶりである。創設から十三年を経過し、これまで数回行われてきたが、回を重ねるごとに一般市民の関心は高まっている。前回は、四千人近い人々が見学に訪れている。

この行事は、岡崎市民に日頃なじみの少ない分子科学の研究の一端を見学していただく絶好のチャンスであり、研究者が直に質問を受ける機会でもある。とりわけ好奇心の旺盛な中学・高校の生徒にとって、この一般公開は有益な思い出になっているようである。そのため、研究所では一般公開にあたって、時間をかけて準備を行っている。

「分子科学」という言葉がわが国で初

めて使われたのは昭和三十六年頃といわれており、研究所の設立が昭和五十年でその歴史はまだまだ浅い。現在、約二百名の研究者が国際的な研究課題に日夜取り組んでいる。この中には、十名にのぼる外国人研究者や全国の大学から派遣された二十名近い大学院生も含まれている。間もなく総合研究大学院も発足するので、毎年一定数の大学院生が研究所に入ることになり、若手研究者が続々と岡崎の地で育つことになろう。

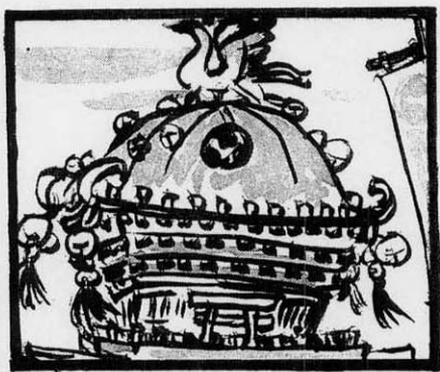
分子の世界は本来極めて身近でありながら、ふつうは全く別世界と思われがちである。私たちの周辺には、数えきれないほど多くの種類の物質があり、高度な物質社会が築き上げられている。化学反応とか、物質の機能とか、エネルギーの化学変換などの本質を理解するには、どうしても分子レベルの幅広い知識が必要

である。最近では、近代技術(スーパーコンピュータ、エレクトロニクス、レーザー・放射光、超高真空)によって、分子レベルの知識が予想以上のスピードで集積されている。次代を担う人々にとって十分魅力ある学問分野であろう。

分子研では、十周年記念に際して、「分子の世界」という啓蒙書を化学同人から出版した。この本は、分子の世界の知識を七つの章にまとめあげ、イラストをまじえ、平易に解説している。また分子研の研究内容の紹介にもなっている。

一般公開に話を戻すと、毎回感じることは、分子科学の本質を説明することの大切さと難しさである。高校生や一般市民の人々に分子科学を理解してもらうための工夫と努力を今後もしていきたいと思っている。

(分子科学研究所教授)



描かなかつた子が描いた

図工・美術科指導員

鈴木 正純

「ぬいぐるみを持った友だちを描こう。」で始まった本時は、展開の終末に近づいた。しかし、二度机間巡視で声をかけられたが、女の子が一人じつと白い画用紙を見つめたまま描く気配を示さない。

「○○ちゃん、友達だけ描いてごらん。」と三度目の指導、だが、姿勢は同じ。

三十七分を経過して作品の掲示が進み、鑑賞の時間一分前となった。先生は、今度は○○ちゃんの右横へしやがみ込んだ。「がんばったね」と無意味な声をかけ、背水の陣とばかり、軽く○○ちゃんの右手を取って頭の一部分の線をかき、後を続けるように言い残して教卓に向かった。

その時だ。○○ちゃんの指先のクレパスが、待ちかねたとばかり動き出した。最初にぬいぐるみを大きく描いた。次に隣へ友達を描くところでチャイムが鳴った。絵は、次の時間に完成したという。

○○ちゃんは、描けないのではない。描きかけが欲しかったのだ。先生と



岡崎吹奏楽団団長

柴田 登 氏

岡崎吹奏楽団の創設者であり、現在も団長として六十名の団員をまとめ、御自身もトロンボーン奏者として岡崎市民にすばらしい音楽を聴かせてくださっている柴田登氏を、勤務先の岡崎商工会議所へお訪ねした。氏は、「創意工夫展」や小・中学校の吹奏楽の指導など、岡崎の教育界とも大変かかわりの深い方である。そもそも、氏と吹奏楽との出会いは、美川中学校時代に溯る。

「当時顧問だった川合博先生から、『音を楽しむ』ことを教えてもらいました。今は、コンクールでいい賞をとることを目的にするから、皆くたびれてやめ

てしまうんですよ。』
と言われる。

「高校、大学とブラスを続けてきたが、社会に出ると吹く機会がない。発散させる場所がないなら作ろうという訳で、美川中と城北中のOBが母体となって結成したのが、昭和四十五年二月です。ラッパが好きだからという理由のほか、青少年の健全な余暇活動の場づくり、更には、『二十万都市岡崎にオーケストラを！』という大きな目的もあったとのこと。三年後には弦楽器も集まり、岡崎フィルハーモニーとして分離独立し、所期の目的は達成されたそうである。

「どうして続けてこれたかと言えば、助成なしで団費だけで運営してきたため束縛がないからでしょう。」

岡吹の特色は、純粹な市民バンドであること。いろいろなジャンルの曲を吹きたいからコンクールには出ないそうである。次に、ユニホームが燕尾服であること。そして、退団者が少ないこと。結婚しても続けている人が多く、団員同士の結婚や兄弟揃って団員になっているなど、とても家庭的な雰囲気のようなのである。余談になるが、団員同士の結婚第一号は柴田氏御夫妻とお聞きした。

「ラッパを吹いていいことは、いい先生やいい仲間巡りに出会ったことです。一生懸命やっている、自然にいい仲間、同じ周波数と言うか同じ考えをもった仲間が集まってくるんですよ。私たちは趣味ではなく道楽だと思つてや

っているんですよ。」

同好の士と岡吹を率いて十八年、その間には第一回教育文化賞受賞（昭和四十八年）の栄にも浴されている。

今の小中学生についてお尋ねすると、「時間がないからかもしれないませんが、今の子は吹き放しで楽器を大事にしませぬね。親が、すぐいい楽器を買い与えるからよくないんです。楽器の掃除をきちんとしている所は、演奏も上手です。」

夢は、親子でステージに立つこと、それも、親と子のバンドで競演したいと言われる。そのため音楽堂ができればとこやかに話されたのが印象的だった。

（生年月日 昭和二十二年三月五日）
住 所 岡崎市大平町岡田三三



音の世界

音楽科指導員

永田 邦雄

一緒につけた線は、○○ちゃんの心の絵を真っ白な紙へ導き出す琴線だったのだ。閉じた貝は、静かな波音で開き始める。心の眼が導かれた時、教育は一步進む。

長音階や短音階、そしてその音階に基づいた和音などの枠で構成される音楽を日常聞き慣れている私たちにとって、そうでない音楽には誰しも抵抗があるだろう。

ところが、子どもたちにとっては、必ずしもそうではないと思わせる授業を見ることがあった。

五年生の子たちが「夜明け」の様子を音で表現しようと取り組んでいた。楽器の制限はあるが、演奏の方法は全くの自由。その中の一つ、木琴グループでは、二台の木琴と一台の鉄琴で、「都会の夜明け」を表現していた。明け方まで残るネオン、次第に明るくなっていくビル谷間、早足で歩き去る人々の様子が、木琴類だけで表現されるのである。

子どもたちの顔は生き生きしていて、演奏に没頭していた。決して調和のとれた音ではなかったが、自分たちだけの音楽（音？）を表現するために目配せをし耳を澄まし、心をついにしようとする様はそれだけで感動的である。

音の世界の面白さ、深さに触れることのできた貴重な体験になったに違いない。



③ 厚走

2



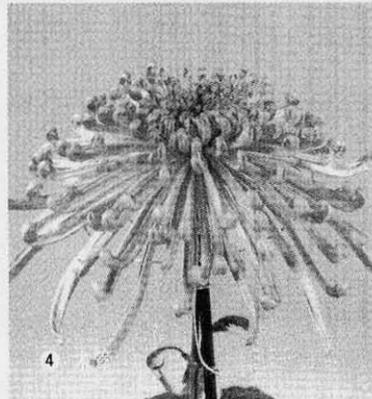
② 摺咲き



① 盛上咲き

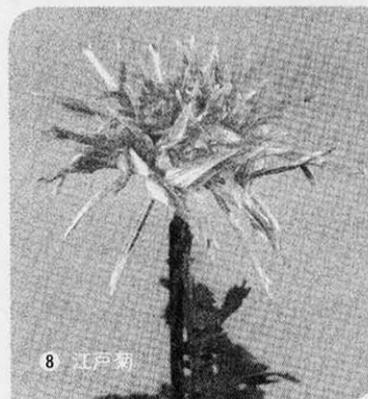


⑤ 針筒



4

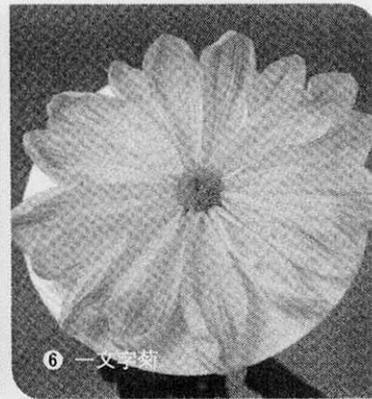
菊



⑧ 江戸菊



⑦ 美濃菊



⑥ 一文字菊

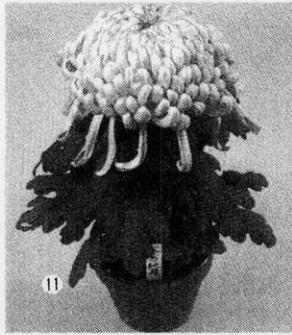
秋の菊は春の桜とともに日本を象徴する花の王者とされている。

折しも、十月二十六日から十一月八日まで岡崎市康生町、岡崎公園を第一会場として、また康生通西ビル街を第二会場として第十三回「三河の菊まつり」が開かれる。そして十一月二日から八日まで岡崎公園で「菊花切花大会」が、また十一月三日には「三河の菊まつり」を写す会」も岡崎公園一帯で開催される。

その菊は中国を原産とし、不老長寿の妙薬として奈良時代に日本に伝来し、重用されたといわれている。従ってすでに千二百年も親しまれている花ということで種類も多く、比較的簡単に作ることができるが非常に奥が深いといわれている。ここでもう少し菊のことを知りたいと、三河菊花協会の役員さんのお宅を次々訪問させていただき、鑑賞菊の分類、育て方、鑑賞の観点などについて特集してみた。

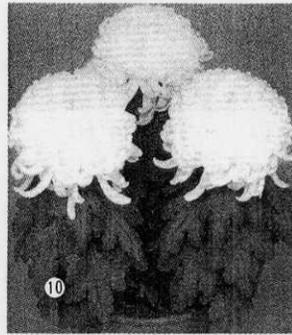
鑑賞菊は左頁の表のように分類される。それぞれの花は右頁写真のようであるが皇室の紋章はこの中の一文字菊である。花作りのポイントは土作りと水かけにあるという。菊は好気性の植物であり、土に空気を通すことが必要である。そのため、繊維質のカヤ、ススキなどを使って腐葉土を作る。人によって混ぜるもの、割合などを工夫しており、その土によって水のやり方も変わってくるという。

その水については「水かけ三年」という言葉があるように、水のかけ方が重要である。しかし、慣れないうちはどうし



◀ 福助作り

首下が40cm以下



◀ だるま作り

首下が60~40cm



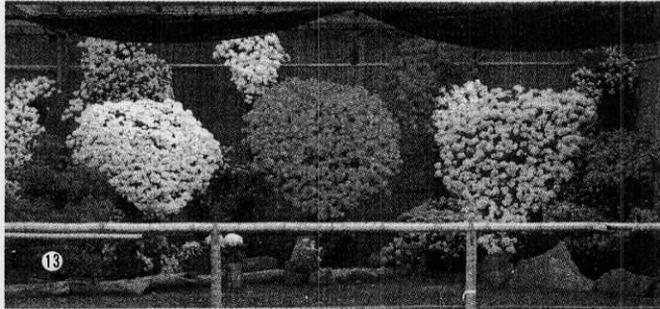
◀ 大輪(数立て)

首下が60cm以上

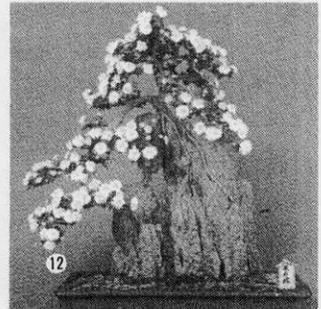
一本立てで、最も丈の低い仕立てである。花(頭)が大きく、茎(胴)が短いところから福助の名がついた。

三本立てで、こんもりと仕立てる。比較的新しい作り方で、三河菊まつりでも本年度より新設された部門である。

丈の高い作りで、一鉢から出る花の数によって一本立て、八本立てなどがある。



◀ 懸崖仕立て



◀ 盆栽仕立て

太い針金などで、いろいろな形の懸崖(支えとなる骨組み)を作り、これに小菊をはわせ、形よく豪華に仕立てる。水滴を逆にしたような形の「前垂懸崖」が最も多く作られている。

古木を土台にし、これに小菊をはわせて作ったものを「木付け」といい、本年度の三河菊まつりは、これで競われる。

観賞菊の分類

○の数字は写真の番号



ても水をやりすぎて失敗する。とにかく一日に一回は土を乾燥させて鉢の中を空気が通るようにしてやる。一日中葉がびんとしているようでは水のやりすぎ。日中はしおれ、夕方になるとまた元気になるような水のやり方で、しつかりとした根を育てることが大切である。

菊花展での審査の観点の主なもの、次のようなものである。

- ・花は大きいほうがよい。
- ・花の色は濃く鮮やかで染みがない。
- ・上から見て丸く、花芯が中心にあり花弁が中心に向かい行儀よく並び器量がよい。
- ・背丈が規定に合っている。
- ・葉のつき方や色艶がよい。
- ・枯れや、虫つきや、よごれがない。

等々について花一本一本について点検し虫眼鏡でアラさがしをして、優劣を決めるとのことであった。

また、数多くの菊を花壇として展示するので、菊の色や種類の組み合わせ方、並べ方が見栄えに大きく影響する。従って、いかに美しく展示するかも、出品者の腕の見せどころでもあるようだ。

なお、この特集作成にあたり、三河菊花協会の会長石川勝一氏、同副会長長奥平繁俊氏、全日本菊花連盟会長、主婦の友社各位にご協力いただきとともに、写真の一部は主婦の友社のご好意により同社発行の「菊花譜」から転載させていただいた。

A君の笑顔

矢東小 新實 克之

A君は、登校拒否とまではいかないが、その傾向のある児童。多くの登校拒否児童のように、自信がなく、無口で、消極的である。また、笑顔も少ない。

四月中は、はりきって登校していたが、そのうち通学班の集合時間に遅れるようになってしまった。

「もしもし、おはようございます。担任の新實ですが、今日、A君、どうしましたか。」

一時間目になっても登校して来ないA君の家に電話をした。一度は学校に行ったが、もどつて来てしまったとのこと。受話器を置くと、私は学級にもどり自習の指示をし、車でA君をむかえに行った。

A君を車に乗せると、緊張を解くためしばらくドライブをした。車を止め、ちらつとA君の顔をのぞきこんだ。いつものように表情が硬い。無表情と言ってもいい。

「うん?どうした、今日は?」
話しかけても、目を伏せたままうなずくばかり。それでも、ぼつぼつとA君は話し始めた。



「学校に行つたけど、朝礼が始まって…。みんなに何か言われると思つて…。おなかも?」
「そうか、遅刻するとかつこ悪いもんな。でもこんなことになつて、もつとつかつこ悪くなつちやたな。今度からがんばるんだよ。」

「……。」
「どう、これから学校に来れるかな?」

うなずくA君に私は少しほつとした。その後、学校に来たら、遅刻した理由をみんなの前できくので、おなか痛かつたからと言つたようにと指示をし、A君と別れた。

二時間目になつて、A君がやつて来た時は本当にうれしかつた。遅刻の理由が言えたことも

うれしかつた。

日に一度は必ずA君に話しかけ、毎時間A君のノートをのぞき、折にふれて励ましてきた。心配していた夏休み後も休まず登校して来ている。笑顔も多くなつたように思う。少しずつ障害を乗り越え、少しずつたくましくなつてくれれば、こんなうれしいことはない。



ホームラン王はだれに

恵田小 倉橋 幸代

「先生、これを説明してもホームラン賞はもらえないの。」

「うん、もらえないよ。みんなに分かるように説明してね。」

「うん。これで二学期初めてのホームランになるぞ。二学期は二学期で、ホームラン賞を

やるんでしよう。」

「そうだよ。二学期こそはホームラン王になつてよ。」

「うん、分かんないなあ。でもがんばろうつと。」

こう言いながら、小黒板へ答えを書きに行った四年生のN男。二学期初めての算数の時間のことである。

私のクラスは、三・四年の複式学級である。全員で二十名と人数は、他の学校とくらべて少ない。しかし、来年は複式が解体されるため、三年は三年、四年は四年の教材を行わなくてはならない。そこで、考えたのが、このホームラン賞である。子どもたちがそれぞれの問題を一人調べる。理解できた子ども



が黒板に書いて、自分のことばで説明する。子どもたちが先生になるのである。それが分かりやすく、答えとしてもあつているなら、ホームランのシールがもらえるのである。

はじめは、一方の学年で説明しては、次の学年に移つて説明するといふ、一斉の渡りを行つていた。五月に入つて、一人調べの方法をとるようになってからは、自分たちで友だちに説明しなくてはいけないという思いが、子どもたちを変えていった。
「先生、○番ができたから黒板に書いて、説明していい。」
それまで、あまり人前に立たなかつた三年生のY子が、ここにこ笑いながら、ノートを見せる。

「さっきねえ、ぼくもできつただけど、ほんのちよつとの差で負けちゃつただよ。」

と、放課に話しかけてくるようになった四年生のS男。子どもにとつても、ホームラン競争は楽しみなようだ。今日も、

「先生、ホームラン○号のシールをちょうだい。」

という子どもうれしそうな顔を見ながら、二学期のホームラン王はだれになるのか、楽しみにしている私である。



昭和六十三年度

視聴覚教育功労者表彰

前教育長 横井 滋 先生

視聴覚教育功労者表彰は、財団法人視聴覚教育協会が日本の視聴覚教育推進に功績のあつた方々を、視聴覚教育功労者として表彰するものである。

今年度は前教育長 横井 滋先生が地方功労者として、愛知県で一人選出された。長年にわたる教育の現場における視聴覚教育推進への努力と、教育長として岡崎の視聴覚設備の充実への努力が認められたものである。なお、表彰は十一月三十日(水)太陽の城で開催される愛知県教育映画祭の席上で行われる。

岡崎の教員自主研修会発足

岡崎の教員自主研修会の第一回研修会が、十月十四日大平市民センターで開かれた。岡崎世界子ども美術博物館館長伊藤四三九先生のお話を熱心に聞いた。

この会は、冬季研修会が第十五回を迎えたのを機会に今一度原点に戻ってあり方を検討する中から誕生したものである。会

〔寄贈刊行・資料等〕

◆先生のポケット
(常磐南小) 村井麻江味
作・絵 安江麻江味
第十四回新美南吉文学賞佳作
B5版 四二ページ

◆教育委員長に糟谷正孝氏

十月一日より教育委員長に糟谷正孝氏が任命された。委員長職務代理者に前川 修氏、教育委員に深田三太夫氏、矢田香子氏が再任された。

◆よい歯の児童・生徒

昭和六十三年度、岡崎市よい歯の児童・生徒。審査の結果は次の通りである。

(小学校男子)

- ・杉浦 忠志(根石)
- ・成瀬 安章(岡崎)
- ・杉浦 英明(三島)
- ・松尾 裕久(広幡)
- ・内山田正夫(愛宕)

(小学校女子)

- ・橋本 実香(六名)
- ・安藤美貴子(大樹寺)
- ・浅井かおり(大門)
- ・柴田 知子(六南)
- ・大沢 香織(小豆)

(中学校男子)

- ・吉川 大輔(城北)
- ・梅村 智之(福岡)
- ・山本 崇(矢作北)
- ・浅岡 祐輔(矢作)
- ・野口 良太(附属)

(中学校女子)

- ・富田 裕子(南)
- ・望月 愛(竜海)
- ・伊藤 愛(葵)
- ・村井 美紀(六ッ美)
- ・永田千恵子(矢北)

第21回岡崎市中学校新人総合体育大会

(途中経過) 10月23日現在

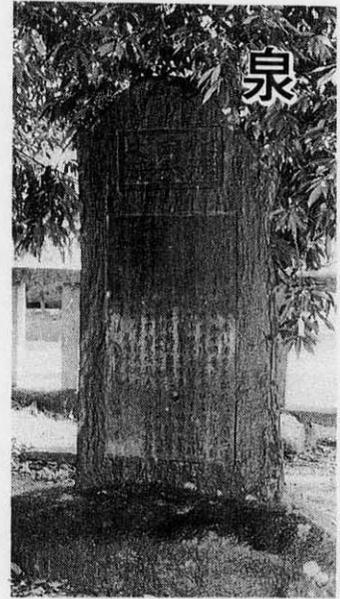
個人の部結果(1位のみ)

種目	2年の部		1年の部	
	田中 政継	竜南	大沢 史彦	竜海
柔道	男子		女子	
	吉見 紀之	東海	迫山 恵	六ッ美
体操	個人総合	井口 広高 葵		
	床運動	吉見 紀之 東海	加納 美和 北	
競技	鉄棒	吉見 紀之 東海		
	平均台	井口 広高 葵	市川 貴子 六ッ美	
跳箱			都築奈緒子 竜海	

陸上競技

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
100M	井本 祐一	南	11" 7	山下 牧子	新香山	12" 9
200M	足立 和義	甲山	23" 4 (新)	杉浦 真紀	城北	27" 6
400M	大久保和則	南	54" 2 (新)			
800M	横井 浩司	竜海	2' 17" 5	水野 望未	甲山	2' 22" 7 (新)
1年1500M	松本 真一	東海	4' 37" 5			
1500M				鳥居三恵子	甲山	5' 10" 4 (新)
3000M	木本 将司	東海	9' 51" 3			
100MH				秋山 敏子	矢北	15" 8
110MH	岡田 豊文	竜南	16" 1			
4×200MR	南中学校チーム			1' 38" 6		
4×100MR				矢北中学校チーム 53" 3		
走り幅跳び	山内 憲	竜海	6 m 15cm	原田 静	甲山	4 m 91cm
走り高跳び	斉藤 享	矢作	1 m 70cm	坂巻あゆみ	城北	1 m 45cm
棒高跳び	長田 和之	六ッ美	3 m 20cm (新)			
砲丸投げ	前田 久典	美川	12m 84cm	魚野 恵子	矢北	9 m 74cm

種目	性	優勝			2位			3位		
		優	勝	2位	優	勝	2位	優	勝	2位
軟式野球	男	城北	美川	岩津	東海	(南×甲山)×新香	六美	葵	六美	葵
ソフトボール	女	竜海	東海	矢北	南					
卓球	男	新香山	常磐	岩津	津					
	女	南	城北	新香山	河合					
バレーボール	男	東海	矢作	新香山	城北					
	女	竜南	矢作	新香山	東海					
バスケット	男	城北	竜南	東海	竜南					
	女	甲山	竜南	東海	城北					
ハンドボール	男	美川	葵	北	六ッ美					
	女	新香山	美川	葵	六ッ美					
剣道	男	六ッ美	矢作	新香山	常磐					
	女	東海	六ッ美	竜南	矢北					
体操	男	東海	葵	竜海						
	女	六ッ美	竜海	南						
新体操	男	東海	葵	六ッ美						
	女	竜海	六ッ美	矢作						
軟式庭球	男	竜南	河合	常磐	福岡					
	女	福岡	甲山	城北						
陸上競技	男	竜海	矢作	北						
	女	甲山	矢作	南						
サッカー	男	竜南	岩津	竜海	矢北					
	女	竜南	竜海	新香山						
柔道	男	葵	矢作	常磐						
	女	葵	矢作	常磐						



上佐々木町上宮寺

碑を建てる

を語りかけてくれる。

上佐々木町上宮寺の山門を入つてすぐ右に「杉浦貞子之碑」がある。貞子は宇頭から上佐々木の杉浦家に嫁した。夫に先立たれたのち、幼い頃から修めた裁縫を村の娘たちに教えていた。

明治三十七年、三十八才の若さで急逝した。

この碑は四十九名の針子により、貞子の遺徳を後世に伝えようと建立されたものである。

現在では、杉浦家は四散し、建立にかかわった針子さんを見つけない手だてもない。

しかし、この碑は多くのこと

村の裁縫の先生の碑を小作農の多かつた上佐々木の村娘たちがどのようにして建てることのできたのであろうか。

強力な援助者がいた……

それにしても多くの人を動かす魅力が貞子にあつたに違いない。師弟の關係が裁縫の先生と弟子という単純なものではなかつたのだらう。

生活に根ざした深い人間的なつながりがあつたからこそ、多くの人の心を動かし、碑の建立という形になつたと思われる。

・表紙写真
・表紙詩
・カッパ

大樹寺小
大樹寺小
六北小

山本健治
山田禮子
国島有子

この本を

- *一茶の日記 北大路健 1300円
- 立風書房
- *経済のしくみ100話 岸本重陳 580円
- 岩波書店
- *粗にして野だが卑ではない 城山三郎 900円
- 文藝春秋
- *優しさとしての教育 灰谷健次郎 950円
- 新潮社

- ※国富みて民貧し 早房長治 1500円
- 徳間書店

経済大国日本、貿易黒字国ナンバー1の日本は、今や世界中から批判を受け、難問を突きつけられている。こうした日本が、世界の中で生き続けるためには、愛される日本、愛される日本人にならなくてはならない。

著者は外国要人の日本観や、西ドイツの生き方と日本のそれとを比較し、「真の豊かさ」の実現のため、諸外国との接し方、さらには私たちの日常生活の大変革を提唱している。

「音が苦」にならないように、しないようにとはよく言われることである。音楽嫌いになる要因の一つに、小中学校の音楽の授業があると言う人もいる。生涯体育が提唱されているが、生涯音楽も人生には不可欠なことではないだらうか。そのためには、「音を楽しむ」授業を創造することが大切だらう。

四季の変化は食膳にのぼる野菜や、教室へ子どもが持って来る花で感じたのはどうやら昔のこと。

キュウリやトマトは一年中スーパーに並んでいる。菊の花も同じで、人間は季節までコントロールできるようなつたと錯覚しようだが、お花見を秋にやったり、菊人形展を春にやることはできない。

シオアス

秋の味覚の代表として松茸がある。岐阜県の産地では、今年には豊作だそうだ。一方岡山県や広島県では不作と聞く。多くの人が松茸の人工栽培に挑戦するが、いまだ成功の話は聞かない。庶民にとってはますます高嶺の花になつてしまふが、自然の環境でしか育たない松茸は貴重な存在でもある。

鈴虫の飼はれて昼をほしいまま小坂順子 「季寄せ」より
昨秋のこと、鈴虫寺を訪ねた。

あまりの可愛いさに心動かされ、十数匹を飼つてみた。ところが、今年一向に鳴き出さない。冬以降の世話の失敗である。華やかな表には、根気のある地道な世話が裏にあると反省することしきり。